

## 2035年までのロシアの石油化学産業発展戦略

ロシア連邦エネルギー省の「2035年に向けたエネルギー戦略（草案）」（以下、「ES2035」と略す）には石油化学産業の発展戦略も含まれている。ES2035によると、2008～2015年に、ロシアの石油化学原料（エタン、LPG、ナフサ）生産は64%増え、石油化学製品とバルクポリマーの生産はほぼ43%増えた。また、2012年以降は石油化学産業に対するいくつかの大規模投資を行い、ポリスチレン、ABSプラスチック、ポリエチレン、プロピレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニルの生産能力を拡大した。しかし、その一方でロシアの石油化学産業は以下の主な課題に直面している。

- ・モノマー（主に熱分解設備）生産能力の欠如
- ・インフラの制約により石油化学原料の輸送能力に阻害
- ・石油化学製品、製造設備と資材の対外依存
- ・石油化学製品の付加価値が低いため、主に建設・公益事業・自動車・電気・包装などの分野で消費され、消費の質が低い

このような課題を解決するためには次のような対策が必要になる。

- ・モノマーの生産のために、現代化の新しいプラントを建設
- ・モノマーとポリマーの生産施設の建設をめぐって、国内の石油化学技術の開発や支援を実施。
- ・輸送ロジスティクスを最適化し、鉄道輸送能力のボトルネックを解消
- ・石油製品の最終消費の質的向上を促進

「ES2035」によると、ロシアは2035年までに石油化学産業は高度な炭化水素生産を中心とし、大規模の熱分解能力（60～100万トンのエチレン）を形成して、プラスチック製品、ゴムおよび有機合成製品を生産し、付加価値の高い消費者向けハイテク製品を提供する。また、2035年までに、北西、ヴォルガ、西シベリア、カスピ海、東シベリア及び極東の6つの生産基地を形成する。

数値目標として、2020年のエチレン生産を2015年比で75～85%増やし、2035年には3.6～5倍に増やす。また、2020年にはすべての軽質炭化水素原料の30%以上に高付加価値加工を施し、2035年にはその比率を44～55%以上にする。また、大型プラスチック製品の生産能力を2020年までに80～90%、2035年までに2.7～3.6倍増やす。

「ES2035」は戦略実施のモニタリングに関して、戦略実施の指標と石油化学産業の発展に関する関連指標の実施状況に関する情報の収集と評価に基づき、毎年モニタリングを実施して、戦略実施の進捗報告を政府に提出するとしている。

上掲の6カ所の石油化学生産基地のうち2カ所はアジア地域に近いことは、ロシアのアジア太平洋への輸出戦略を反映している。「ES2035」は今後の輸出について、単純なエネルギーの輸出から高付加価値製品の輸出に転換するとともに、輸出先を欧州市場からアジア・太平洋市場にシフトすることを明確にしている。この戦略が順調に進めば、日本にとっては、アジア・太平洋地域の石油化学製品のマーケットにおいて競争相手が増えることになる。